

ウィーンでのプロジェクト『所作の敷衍』は、言葉に頼らない伝達のかたちとしての社会的作法や所作に注目している。このプロジェクトのリサーチをとおして行なう機会としての夕食会のシリーズ『セカンドハンド・ディナー』を開催した。それぞれ主催者、招待客、そして社会の一員として、社会マナーに関するいくつかの場面を実際に体験するに至る実験となった。

マナーのための食卓を整える

英国とノルウェー、スウェーデンに住む古くからの友人三人とウィーンで直接知り合った日本人一人を介してつながることのできた「友達の友達」を招待し、さらに「セカンドハンド・ゲスト」となる彼らの友人と一緒に来るようお願いした。毎回、五名の出席者と共同で思考するため、ウィーンや他所での私体験を基づいた、社会に関する質問を提示した。そして世界の食文化の伝播や共通性を意識した鍋料理を振る舞った。

相互関係の構成に配慮して人々を招待し、さまざまな条件をクリアした食事を準備し、討論を進行することに奮闘した。招待に対しての返事の仕方、夕食への来場や食べる時の作法、他の出席者との社交の物腰なども百人百様で、出席者数人から、彼らも他人の礼儀を観察していたと聞いた。毎回、前回の体験を踏まえて、新しいかたちを試し、改善するようにした。

記録としての翻訳

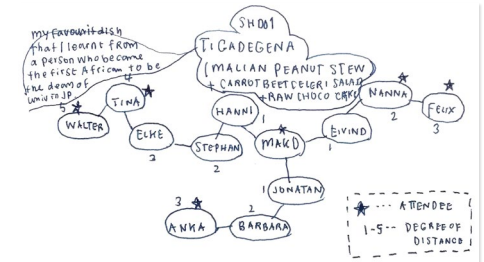
会合中に音声や映像記録をする代わりに、経験したことをリスト、随筆、ドローイングなど、どのようなかたちにもいいので、会合後に「翻訳」して渡してほしいと出席者をお願いした。それはその食卓での討論と人間関係の価値を優先するためだった。

全ての会合に出席した二人の人物は、翌回の始まりに他の出席者に対して前回の様子を語り伝えた。出席者による「翻訳」は、同じ会合の出席者であっても視点や解釈が異なっていたり、記憶が間違っていたり、またその体験からさらに創造的な課題として取り組んだもの(抽象的なドローイングや心象風景を描いた日記、人間関係を模したビデオなど)があったりで、それらが集まることで記録として求められる一般性や客観性に近づいているようにも見える。

次へと手渡し、解き放つ

クンストハレでの展示では、提供した食事の材料、料理の名前とその料理にまつわる数行の小話を記した(レシピなし)付箋、私と出席者の相互関係図に、参加者から寄せられた「翻訳」を添えて、それぞれの会合を紹介した。

プレゼンテーションの後、『セカンドハンド・ディナー』には出席しなかったが、食事に招待してくれた人々に、食材と翻訳のセットをそれぞれ託した。彼らには、食材で同じ料理を作り、「翻訳」に発想を得て主題について討論するよう試みるかどうかは彼らの自由で、ただ、できれば孤食のためではなく社交の機会に用いて欲しいと伝えた。



Hi Mako, here is a list of the topics that I remembered from our discussion on Saturday:
 Smartphones - indispensability and addiction
 Live performances - cultural differences in the audiences' reaction
 Talking to strangers - acceptance across cultures
 National identity - e.g. Turkish, Norwegian, Austrian, how it changes according to where you are at.
 These are some of the things we discussed while you were recording. Then we talked about other things such as hygiene, hygienic standards in public and private etc.
 As for the translation, I may need some more time. I am pretty busy this week, and next Wednesday I'm going away for one week. Maybe I can do it when I get back?
 Is that too late? Let me know. Best, Kosta

(左頁)討論の様子(右頁、上から下へ)『セカンドハンド・ディナー』第一回の料理の名前と小話、出席者との人間関係図のメモ; 第一回の「翻訳」としての出席者によるビデオ(スタイル写真); 第三回の「翻訳」として出席者からSNSで送られてきたメッセージ; 次の「翻訳者」のための『セカンドハンド・ディナー』第二回の食材と「翻訳」のセット



Second-hand Dinners セカンドハンド・ディナー

2019年

討論会 + 収集と伝播(食材、メモ、視覚素材)

クンストハレ・エクスナーガッセ(ウィーン)でのプロジェクト『追熟と訛り: 所作の敷衍』の一部として